在宅医療と介護の連携を強化! 手元で患者状況を確認し的確な判断を

今後もさらに増える高齢者をどう 支えていくか――。日本におけるこの 重要課題に対して、有効策の1つと いえるのが在宅医療=訪問診療だ。

医療法人社団プラタナスが運営す る東京都世田谷区の桜新町アーバン クリニックは、地域に密着した「家庭 医 | を標榜し、外来診療だけでなく、 在宅患者への24時間365日体制での 訪問診療にも力を入れている。

院長の遠矢純一郎氏は、「高齢者 の在宅支援においては医療だけでな く介護も重要な要素ですから、職種 や事業所を越えて情報を共有する必 要があります」と話す。

多職種・多事業所間の連携を効率 的に行うために同院が企画し具現化 したものが、クラウド型の地域医療連 携システム「EIR(エイル)」とスマート フォン/タブレットの組み合わせだ。

スマホの利便性に着目し 患者情報共有を院内から地域へ

もともと同院では、院内スタッフ間 の情報共有を図るべく、ノートPCと データカードでどこからでもリモートア クセスできる環境を整えており、この 仕組みを地域の医療・介護連携に応 用できないかと考えていた。業務連 絡用にiPhoneを使い始めた遠矢氏 は、端末の使いやすさ、クラウド利用 の利便性などに魅力を感じ、医療業 務向けに専用システムを構築しようと 思い立った。

同院スタッフの伝手で開発依頼先

もすぐに見つかった。ソフトウ エア会社のエイル(福岡県福 岡市)は、企業向けのグルー プウェアやiPhone/iPadアプ リを提供しており、そのノウハ ウを生かしてクラウドシステム 「EIR と端末アプリを短期間 かつ低コストで開発した。

「患者さん宅に置いてある 連絡ノートの代替として、セキュリティ を保持しつつテキストや写真画像な どを簡単に入力しアップできるように 工夫しました。また、iPhone/iPadに 加えて Android 端末、さらに通常の 携帯電話機でも利用できるようインタ ーフェースを作り込みました と、同社 社長の片山嘉國氏は説明する。

汎用サービスとしても提供 導入実績はすでに300施設

桜新町アーバンクリニックでは、在 宅診療に携わる医師や看護師などが iPhoneを中心とした端末約20台を利 用し、常時120~130人の患者に関 して、ケアマネージャーや介護ヘルパ

桜新町アーバンクリニック 院長 遠矢純一郎氏(写真右か ら二人目)、同院 ナースケア・ステーション 事務 北山摂 氏(左)、同院 ナースケア・ステーション 薬剤師 大須賀悠

医療機関

(情報共有)

クラウドシステム

スマートフォン、 タブレット

在宅医療と介護の連携

>>>DAT 業種

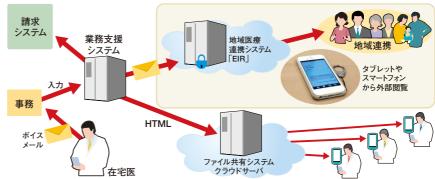
活用分野



ーなど他事業所の担当メンバーとコミ ュニケーションしている。「患者さんか らの緊急コールを受けたときにも、メ ンバーの書き込んだ情報がより的確 な判断・処置に役立っています」と遠 矢氏。また、医師と介護ヘルパーの ように会話する機会が少ない職種間 のコミュニケーションも生まれ、チーム ワークの醸成にも効果が現れている という。

さらに「EIR は、同院での運用と 並行してブラッシュアップが進められ、 他の医療機関へのサービス提供も開 始された。採用実績は全国各地に広 がり、すでに約300施設(患者数約 1900人)が利用しているという。

図 桜新町アーバンクリニックにおけるIT化と地域医療連携システム



Profile

医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック http://www.sakura-urban.jp/

東京都世田谷区新町 3-21-1 2F 2005年

-般外来(内科・皮膚科・小児科・消化器内科・婦人科・ 心療内科)、専門外来(禁煙外来・もの忘れ外来)、在宅